全国学力・学習状況調査の概要

１　学力に関する調査結果から見られる特徴

国語科における概要

○ほとんどの項目が、全国・県の平均を上回っている。校内研究で読むことを重点にした結果だと考えられる。また記述式、短答式の無回答率が下がった。
○「短答式」「情報の扱い方に関する事項」の全国・県平均よりも高い数値になった。
▼文章を読んで考えたことを、自分の体験や経験と結びつけて書くことが苦手な傾向にある。

算数科における概要

○ほとんどの項目が全国・県の平均より上回っている結果になった。校内研究で読むことを重点にしたことで、正しく問題の意図を理解することができたからだと考えられる。
○記述式・短答式の正答率が上がった。
○「数と計算」「測定」「変化と関係」の項目が全国・県の平均よりも高い数値になった。
▼「図形」の領域では、作図や教具の使い方をまだ定着していない傾向にある。
▼割合の無回答率が他の項目と比べると多い傾向にある。

２　児童質問紙調査の結果から見られる特徴

○日々の規則正しい基本的な生活習慣が身に付いている。懇談会や保健便りの生活習慣に関する啓発が保護者の理解に繋がっていると考えられる。
○思考ツールを用いた学習を取り入れたことで、自分の考えや思いを共有し、協働的な学びにつながっている。
○人が困っていたら、進んで助けようとする意識が高いことが分かった。
○ICT を活用した学習状況が高い結果になった。
▼英語に関する意識が低いことが分かった。
▼自分の思いや考えを伝えることが苦手な児童が多い傾向にある。
▼学校での悩みや相談がしにくい結果になった。
▼SNS 等の利用時間が長い児童ほど正答率が低く、日常生活のリズムが整っていない傾向にある。